

グラフでみる きょうたんの予算

ご覧いただく際の参考にしてください。

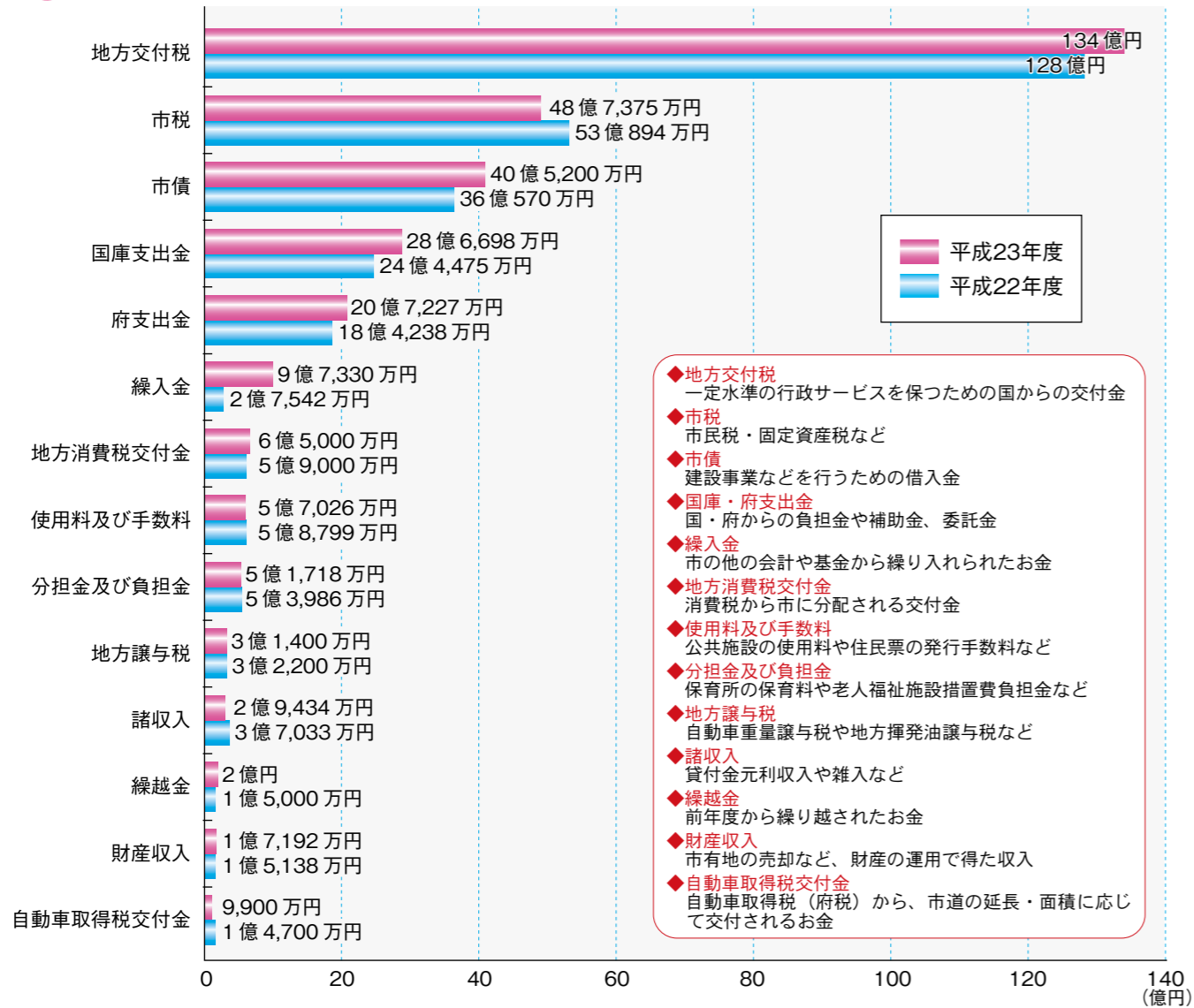
参考

- 市の予算は、『年度』という期間を使っています。
平成22年度とは、平成22年4月1日から平成23年3月31日までをいいます。
平成23年度とは、平成23年4月1日から平成24年3月31日までをいいます。
- 京丹後市の人口 6万784人
(平成23年3月31日現在の住民基本台帳による数値です。)
市の借金や貯金の、市民1人あたりの金額を計算する基礎に使用しました。

平成23年度の収入の内訳

市の収入で一番金額の多いものは、国から配分される地方交付税の134億円で、次いで市税の48億7,375万円、市債（借金のことで、地方債とも呼ばれます）40億5,200万円の順となっています。

主な収入比較



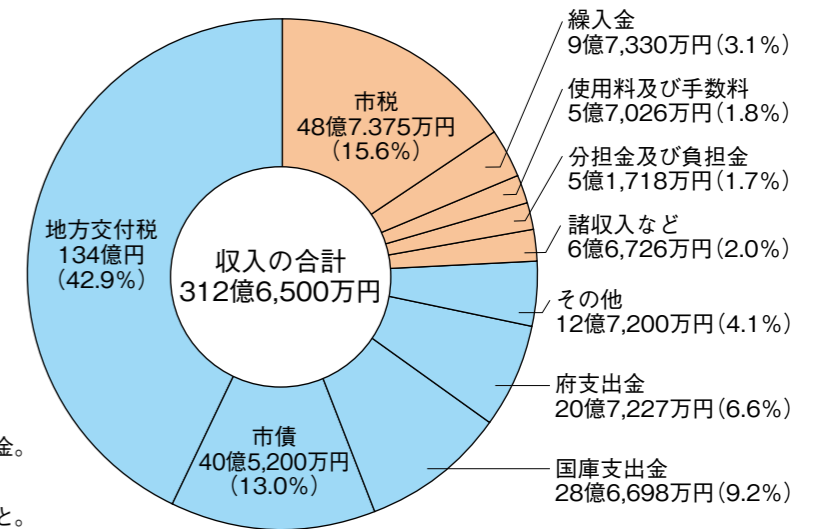
財政基盤を安定させ、市民のニーズに応じた自主性のある行政サービスを提供するためには、一般的に**自主財源**の割合が高いほど望ましいと考えられています。
市の収入総額312億6,500万円に占める割合は、自主財源が76億1,750万円（24.2%）、依存財源が236億6,325万円（75.8%）となっています。国や府からもらえるお金や借金に頼った収入構造といえます。

収入の構造

自主財源 24.2%

依存財源 75.8%

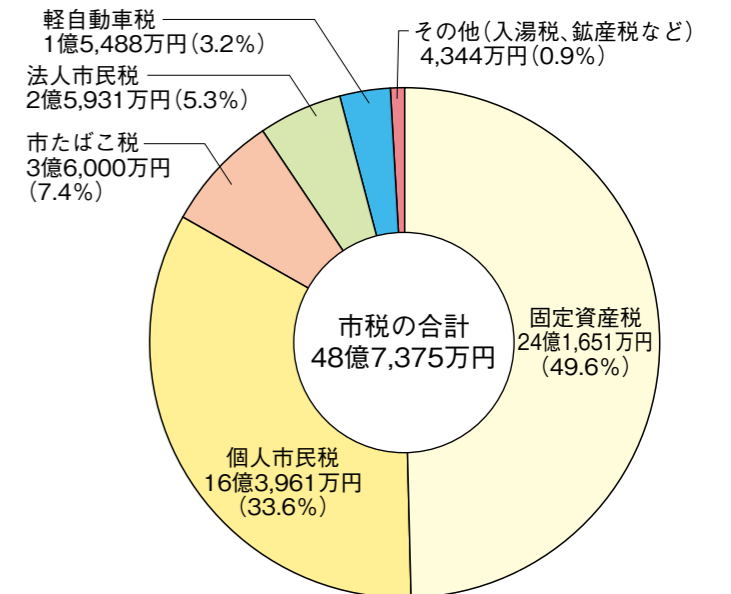
- 自主財源・・・市が自ら徴収することができるお金。市税や施設の使用料、各種手続きの手数料など
- 依存財源・・・国や府から交付されるお金や借金のこと。地方交付税や補助金、市債など



市税の状況

〈市税の内訳〉

京丹後市の市税は、市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、入湯税などがあります。
市税の内訳をみると、固定資産税が24億1,651万円で市税の約5割近くを占めており、次いで個人市民税が16億3,961万円、市たばこ税が3億6,000万円となっています。



〈市税の推移〉

平成23年度は、個人市民税および市たばこ税の落ち込みにより市税の減収が見込まれます。
平成19年度の税源移譲により、所得税（国税）が減少し個人市民税（地方税）が増加したことにより、一時的に市税収入は伸びましたが、年々減少傾向にあります。平成23年度は、税源移譲前の水準以下に落ち込み、京丹後市発足後最小の予算となっています。

